

＝令和5年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー研修大会＝

日 時：令和5年8月10日（木）

会 場：上越教育大学（上越市山屋敷町1番地）

◇実施報告

令和5年8月10日（木）に本学を会場として、「令和5年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー研修大会」を開催しました。

本アカデミーでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止になった令和2年度を除き、平成30年度より毎年夏に「道德教育研究大会」を開催してまいりました（令和3年度、4年度はオンラインで実施）。今年度より、「上越教育大学上廣道德教育アカデミー 研修大会」と新たに名称を変更し、開催する運びとなりました。

文部科学省が令和3年度に行った「道德教育実施状況調査」の報告書（2022）では、従来の「道德の時間」が教科化されて以降、道德科に関する教師の不断の授業改善や評価の改善への取組が着実に進展していることが示されています。しかし、学校・教育委員会ともに、「一層の授業改善がさらなる充実に向けた最も大きな課題」と認識しています。これは、授業の量的確保や教師の意識向上といった、道德科に関するこれまでの課題を克服してきたからこそ見えてきた、建設的な課題と言えます。

一方、これまでの免許状更新講習が発展的に解消されたのに伴い、それに代わる質の高い研修の提供は、喫緊の課題となっています。

本研修大会は、参加者の皆様の「資質向上」、とりわけ「社会・学校の変化の視点」からの「学習指導に主として関する」資質向上の役割が果たせるものとして企画しています。

当日は、県内の教育関係者を中心に、全国から61名の方にご参加いただきました。

開会式では、大会事務局長の菅原友和（上廣道德教育アカデミー特任准教授）の司会のもと、本学学長の林泰成（上廣道德教育アカデミー統括監督者）が主催者を代表して挨拶し、その後、大会実行委員長の前川裕隆（上廣道德教育アカデミー所長）が主旨説明を行いました。



主催者挨拶 学長 林 泰成



主旨説明 実行委員長 前川 裕隆

その後の基調講演では、帝京大学教育学部教授の赤堀博行様（元 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官）より、「道德教育の本質～道德科の特質を生かした授業の実際～」と題し、学校における道德教育の充実や道德科の授業改善の在り方について、お話しいただきました。

<基調講演の様子> 講師 赤堀 博行 様



午後の分科会では、参加者が3会場に分かれ、講師が各会場を巡回しながら、道德科の授業づくりについての講義及び演習が行われました。

畿央大学教育学部教授の島恒生様（文部科学省 学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者）からは、「道德科の意義や魅力について～目標から見たそのあり方を中心に～」と題し、道德科の目標を踏まえた授業の在り方について、具体的に指導していただきました。



講師 島 恒生 様



演習の様子



上越教育大学上廣道德教育アカデミー 客員講師の齋藤眞弓様（文部科学省 学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者）からは、「道德授業の創り方～ねらい・主題・中心発問を中心に授業者は何をするのか～」と題し、ねらい・主題・中心発問を設定する際の考え方とともに、授業に生かせる指導技術についてもご指導いただきました。



講師 齋藤 眞弓 様



模擬授業の様子

上越教育大学上廣道德教育アカデミー 客員講師の小宮健様（前 上越教育大学上廣道德教育アカデミー 特任教授）からは、「多様で効果的な指導方法の理解と工夫」と題してご指導をいただきました。参加者は、小宮先生の模擬授業を通して、指導方法の効果的な活用や留意点について学びました。



講師 小宮 健 様



模擬授業の様子

終日、参加者は、講師の方々の講義に熱心に耳を傾けていました。また、各会場で行われる演習では、参加者から多くの発言が出されるとともに、参加者同士での交流も、活発に行われました。

大会終了後のアンケートでは、参加者から、「授業を創る上で大切なポイントがたくさん紹介されていて充実した学びでした。」「4名の先生方の講義を全て受けることができ、とても贅沢であり、どの講義も大変分かりやすく、勉強になりました。」といった肯定的な意見が多く見られました。これらの意見から、本大会が参会者にとって、充実した研修の機会となったことがうかがえます。